

## 210. 滋賀県における打製石斧の 消長についての一予察

### 1. 錦織遺跡出土の打製石斧

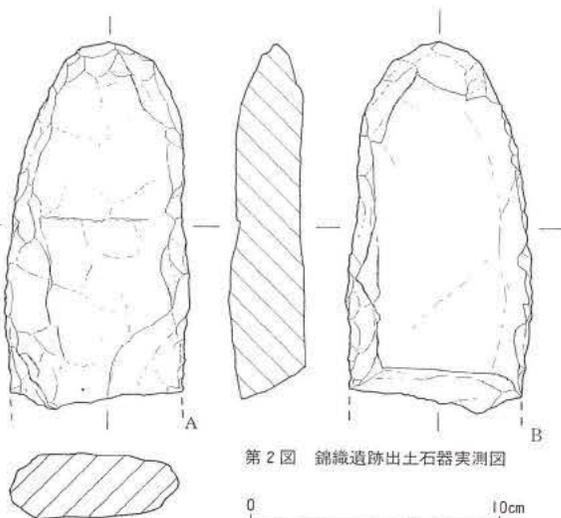
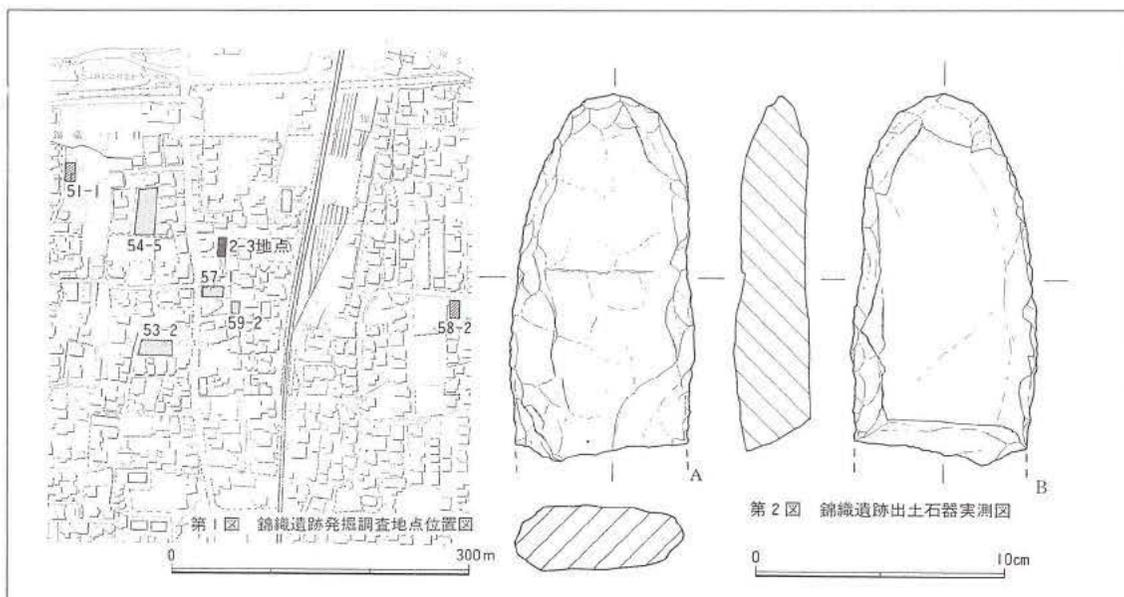
錦織遺跡は、大津市錦織ほかに所在し、「近江大津宮錦織遺跡」として国の史跡に指定されている。これまで民家などの新築・増改築に伴い、小面積ながら発掘調査の成果が積み上げられてきたが、平成2年度の発掘調査概要によれば、2-3地点の調査において、1点の石斧が出土している<sup>1)</sup>。この石斧は県内においては希少な、弥生時代の打製石斧とみなし得る資料であるため、ここで改めて紹介しておきたい。

石斧は輝緑岩の自然石を打ち欠いて成形したものであり、B面は外縁を除いては自然面のままである。破損品であるが、形状からみて、刃部を欠損した短冊型打製石斧の基部と考えられる。A面の中央付近には横方向のわずかな段があり、これを利用して柄に緊縛したものかと推測されるが、明確な痕跡は観察できない。残存長14.3cm、幅7.4cm、厚さ3.0cmを測り、打製石斧としては大型品の部類に含まれる。なお、磨製石斧の未製品である可能性も検討したが、太型蛤刃石斧の未

製品としては厚みに乏しいことと、製作段階において本品のような破損をする可能性は低いと思われることから、未製品とはみなし難いものであろう。

次に、この石斧の出土状況を見てみよう。調査概要報告書によれば、2-3地点の発掘調査においては、東西6.8m×南北2.0mの調査区から、溝状の落ち込み(SD1)と3層の遺物包含層が検出されており、打製石斧は、そのうちの第2遺物包含層からの出土である。第2遺物包含層は、弥生土器や平瓦、土師皿などを出土したSD1の埋没後に堆積した層であり、弥生土器や古墳時代以降の須恵器、土師器、瓦などの遺物を含み、打製石斧と共伴する土器は明確でない。このため、石斧の所属年代について報告は言及していないが、包含層からは縄文土器の出土がないことから、石斧の年代は弥生土器の示す時期とするのが妥当であろう。弥生土器は第II様式～第III様式並行期のものであることから、打製石斧の年代は弥生時代中期前半～中頃としておきたい。

ところで、近江大津宮関連遺跡である錦織遺跡の下層に弥生時代の遺構、遺物が存在することは、これまでの調査においても知られていた事実である。2-3地点の周辺部の発掘調査においては<sup>2)</sup>、2-3地点から約70m西(山側)の54-5地点では、中期前半の方形



周溝墓1基と土坑群が検出されているほか、南に位置する59-2地点において中期前半頃の土器が多量に出土している。57-1地点では、手あぶり形土器を出土した方形周溝墓のほか、包含層中からは中期前半を主体とする土器群が出土している。また、53-2地点では前期の鉢形土器が出土している。

このように、弥生時代の遺構、遺物が多くの地点で検出されているのに対して、付近における縄文時代の遺構、遺物の検出例は僅少であり、報告例では51-1地点で縄文時代早期の遺構、遺物が、京阪電車より浜側の58-2地点で、縄文時代後期の土坑と遺物包含層が検出されている程度である。このことから、今回出土した打製石斧が縄文時代の遺物の混入である可能性は低いと考えられる。

以上のことから、錦織遺跡出土の打製石斧を弥生時代中期(Ⅱ~Ⅲ期)の資料として位置づけ、県内出土の他の資料と比較して、若干の検討を加えたい。

## 2. 県内出土の打製石斧

これまで、滋賀県内の各地で打製石斧の出土例が報告されているが、石斧の所属する時期を伴出遺物で確認できる良好な事例は少ない。ここでは、ある程度時期の限定できる資料を中心に紹介していきたい。

### ①仏性寺遺跡(高島郡マキノ町)<sup>③</sup>

県営ほ場整備事業に伴う昭和53年度の発掘調査では、第54トレンチにおいて縄文時代後期の遺物包含層を検出している。土器の年代は中津式~北白川上層式であり、同じ包含層から出土した打製石斧4点の年代もこの時期幅に含まれるものと考えられる。県内出土の打製石斧としては、かなり早い時期の出土例である。

### ②弘部野蘭生中町遺跡(高島郡今津町)<sup>④</sup>

縄文時代後期末から晩期前半にかけての遺跡であり、数次にわたる発掘調査が実施されている。調査の概要のみしか明らかにされていないが、昭和56年度調査では18点、昭和57年度調査においては6点の打製石斧が出土したとされている。石斧の形態は、短冊型、バチ型、分銅型と多彩である。

### ③滋賀里遺跡(大津市)<sup>⑤</sup>

湖西線建設に伴う発掘調査において、ⅢC区・ⅢD区などから、計4点の打製石斧が出土している。調査区からは縄文時代後期以前の土器の出土もあるが、大半が晩期の土器であることから、打製石斧も晩期の時間幅の中に収まる遺物であろう。

### ④麻生遺跡(蒲生郡蒲生町)<sup>⑥</sup>

県営ほ場整備事業に伴う昭和60年度の発掘調査において、切土F地区下層の竪穴住居13埋土内から、打製石斧が1点出土している。サヌカイト製の完形品である。遺構内の伴出土器は明確でないが、この遺構面か

らは縄文時代晩期の突帯文期の土器のみが出土しており、打製石斧もこの時期に属するとみなし得る。

### ⑤山賀遺跡・小津浜遺跡(守山市)

新守山川改修工事に伴う昭和59年度の発掘調査において、3号橋梁部分のL区から打製石斧1点の出土が報じられている。自然流路の埋土内と考えられる土層からの出土であり、伴出土器は縄文時代晩期から弥生時代中期のものが中心である。報告者によれば、打製石斧は磨製石斧の破片を転用したものである。

なお、昭和61~62年度に、3号橋梁部分の隣接地の発掘調査が実施されており、この際の現地説明会資料にも打製石斧の出土が報じられている。出土地点、出土状況などは記されていないが、3号橋梁部分からの出土品と同じく、縄文時代晩期から弥生時代中期の時代幅の中で捉えて大過ないと思われる。

### ⑥川崎遺跡(長浜市)<sup>⑦</sup>

昭和45年度の国道8号線長浜バイパス建設工事前調査において、打製石斧3点の出土が報告されている。第2地点の有機物堆積層からの出土とされるが、出土状況は明確でない。石器と伴する土器も明確にしたいが、調査によって出土した土器の示す年代幅は、若干量の縄文時代中期~後期の遺物や晩期突帯文土器が一定量出土するものの、弥生時代前期の遺物が主体である。

### ⑦塚町遺跡(長浜市)<sup>⑧</sup>

土地区画整理の事前調査が平成元年度に実施されており、自然河道S R01から打製石斧が出土したとされている。未報告資料であり、出土状況や伴出土器の詳細は不明であるが、調査概要の記述によれば弥生時代中期の第Ⅱ様式後半から第Ⅲ様式前半の土器が主体とされている。調査区全体の状況としては、縄文時代晩期の突帯文期から弥生時代中期中頃の年代幅に収まる遺跡のようである。

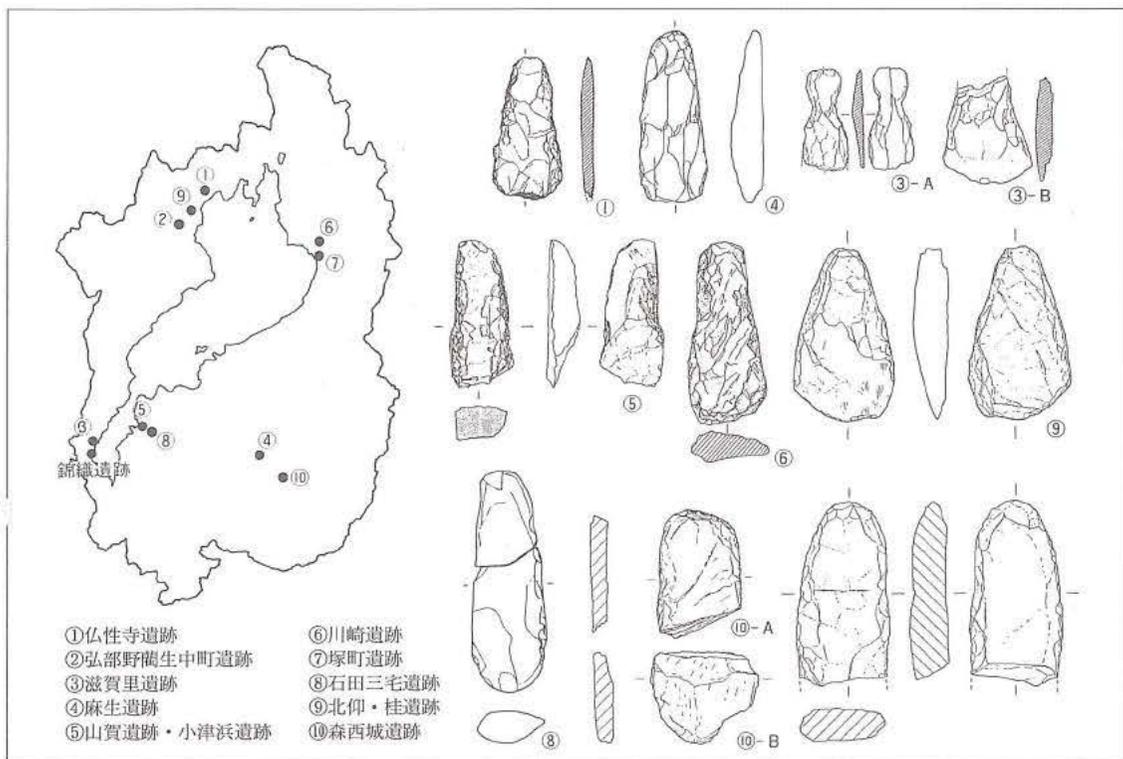
### ⑧石田三宅遺跡(守山市)<sup>⑨</sup>

滋賀県住宅供給公社が計画する宅地造成事業の事前調査として、昭和61年度に発掘調査が実施された際に、第2調査区の溝状遺構S D1から打製石斧が1点出土している。弥生時代中期前半(第Ⅱ様式並行期)の土器とともに溝の最下層から出土したと報じられており、伴出土器も一括資料と見なして大過ない。

### ⑨北仰・桂遺跡(高島郡今津町)<sup>⑩</sup>

県営ほ場整備事業に伴う昭和59年度の発掘調査において、弥生時代中期(第Ⅲ~第Ⅳ様式並行期)の遺物包含層中から打製石斧が1点出土している。刃部の広がる形態の完形品であり、礫の自然面を残した面には、縦方向の細かい擦痕が多数観察でき、使用痕と判断できる。

調査担当者は混入の可能性を考えており、同じく包



第3図 打製石斧出土遺跡位置図および遺物実測図（遺物のスケールは1/6）

含層出土の石棒状石製品とともに、縄文時代の遺物の混入の可能性は否定できない。ただし、報告されている伴出土器には縄文土器は見られない。

⑩森西城遺跡（蒲生郡日野町）<sup>10</sup>

県営ほ場整備事業に伴う平成2年度の発掘調査において、6区の土坑S K12から打製石斧の破片が2点出土している。ただし石材の状況からみて、2点は同一個体である可能性がある。土坑内からは弥生時代中期後半（第Ⅳ様式並行期）の土器がまとまって出土しており、共伴土器が確実な資料である。

以上のように、滋賀県内においては縄文時代後期から弥生時代中期にかけての時期の打製石斧の出土が確認できる。時期別に見れば、縄文時代後期～晩期の遺跡においては、1遺跡における出土点数に複数例が多いなど、打製石斧は石器の中の主要器種の1つとみなし得る状況である。これに対して、弥生時代中期の遺跡における出土例は、この時期の遺跡の発掘件数のうちの極く少数であり、1遺跡での出土点数も1点のみが多い。なお、弥生時代前期は明確な出土事例を欠くが、これは県内における弥生時代前期の遺跡の良好な報告例が乏しいためと考えられる。弥生時代前期は、縄文時代後・晩期と弥生時代中期の過渡的な様相を示すものであろうか。

現状の資料による限りでは、県内での打製石斧の使

用は、縄文時代後・晩期には一般的であるが、弥生時代になると少数の遺跡で限定的に使用されるのみとなり、その使用も弥生時代中期で終了するとしておきたい。形態の変化は追いがたいが、弥生時代のものの方が、おおむね大型であるという傾向は指摘できよう。

3. 各地の様相との比較

前節でみた県内の状況を、他府県と比較してみよう。打製石斧は、西日本においては縄文時代後・晩期に盛行するが、弥生文化の広がりとともに、九州東南部の火山灰台地上や東日本では南信濃などの一部地域を除いては、急速に消滅するとされてきた。しかし近年では、中国山地沿いの遺跡では、弥生時代中期においても打製石斧が少なからず出土するほか、東日本では打製石斧が弥生時代後期まで使用される地域が、かなり広範に存在することが明らかになってきた。

石川日出志氏によれば、伊勢湾沿岸地方においては、打製石斧の出土は弥生時代前期の遺跡において一般的であり、近畿地方との地域差とされている。続く弥生時代中期においては、低地では打製石斧は消滅するが、扇状地や河岸段丘上の遺跡では継続して出土が見られるとの指摘もされている。滋賀県においても、弥生時代中期において打製石斧を出土する遺跡には、内陸部に位置する森西城遺跡や、狭小な扇状地上に立地する

錦織遺跡が含まれるように、限定された立地条件が考えられるものかも知れない。

縄文時代晩期中葉の段階において、大阪府下の遺跡においては打製石斧・凹石・石皿などの植物質食料利用のための石器の比率が低いのにに対して、北陸地方では比率が高いとされ、滋賀県周辺では両者の中間的な石器組成が見られるとの研究がある<sup>9)</sup>。弥生時代における打製石斧の出土は、大阪平野の遺跡群では皆無に近いのに対して、滋賀県では弥生時代の打製石斧の出土が確実な点において、縄文時代晩期の状況と符合する。また、この様相は伊勢湾沿岸地方などの東日本地域と共通する部分があり、滋賀県における弥生文化の一樣相として注目すべきものであろう。

#### 4. 今後の課題

以上、滋賀県内における打製石斧の乏しい出土例を基に、若干の考えを述べてきた。弥生時代とみなし得る出土例には近年の報告例が多く、同様の事例は増加していくものと推測しているが、今後の見通しは明らかでない。

本稿では、打製石斧の用途については全く触れなかった。植物質食料採取のための土掘り具であろうと推測する以上の考えを持ち合わせていないためである。今後の課題としたい。また、打製石斧のみを取り上げるのではなく、石器組成の問題を数量化して検討していく必要も痛感しているが、滋賀県においては良好な報告例が乏しいことと、筆者の力量不足のため、有為な組成論を述べ得る段階には至っていない。現段階で考えを述べるのは僭越かとも考えたが、先学の方々に御批判いただいて今後の指針とすべく、小文を成したものである。

なお、本稿を成すにあたっては、錦織遺跡（2-3地点）の発掘調査を担当された大崎哲人氏のほか、浜崎悟司、清水ひかるの各氏から資料の提供などの協力を受けた。末筆ながら記して感謝したい。

(井上 洋介)

#### 註

- ① 『錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要VI』 1992, 3 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 (以下、県・協会と略す)
- ② 『錦織遺跡—近江大津宮関連遺跡—』 1992, 3 『錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要I~VII』 1986, 3~1993, 3 以上、県・協会
- ③ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書VI-3』 1979, 3 県・協会
- ④ 『弘部野』 1982, 3 今津町教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会・滋賀県教育委員会 『今津町文化財調査報告書 第2集』 1983, 3

- 今津町教育委員会
- ⑤ 『湖西線関係遺跡調査報告書』 1973, 3 滋賀県教育委員会
  - ⑥ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIV-5』 1987, 3 県・協会
  - ⑦ 『新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要I—新守山川橋梁工事に伴う山賀遺跡の調査—』 1986, 3 県・協会
  - ⑧ 守山市山賀町小津浜遺跡現地説明会資料 1988, 2 県・協会
  - ⑨ 『国道8号線長浜バイパス関連遺跡調査報告書』 1971, 3 滋賀県教育委員会
  - ⑩ 古川 登「近江における弥生時代中期前半の土器について—長浜市塚町遺跡SX02出土の一括遺物を中心に—」『滋賀考古』第4号 1990, 9 滋賀考古学研究会
  - ⑪ 『石田三宅遺跡発掘調査報告書I—滋賀県住宅供給公社宅地造成事業に伴う—』 1988, 3 県・協会
  - ⑫ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XII-8』 1985, 3 県・協会
  - ⑬ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-4 森西城遺跡・十禅師遺跡』 1992, 3 県・協会
  - ⑭ 平井 勝『弥生時代の石器』 1991, 11 ニュー・サイエンス社
  - ⑮ 山本 直人「石川県における打製石斧について」(『石川考古学研究会会誌』第28号 1985, 3 石川考古学研究会) や平野 吾郎「東海地方における弥生時代の石器について」(『研究紀要I』 1986, 3 財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所) など
  - ⑯ 石川 日出志「伊勢湾沿岸地方における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」『<条痕文系土器>文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編II・研究編』 1988, 4 愛知考古学談話会
  - ⑰ 中村 健二「県境の遺跡」『滋賀文化財だより』 No.184 1993, 5 財団法人滋賀県文化財保護協会